

バッタ目の全科説明（資料）

2018. 7. 5 Tentoumusi (Oda) 作成

私の昆虫図鑑収録のまとめ

目 次

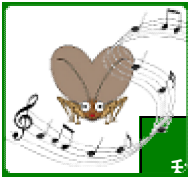
科 名	該当ページへ移動
コロギス科	GO!
カマドウマ科	GO!
キリギリス科	GO!
ササキリモドキ科	GO!
クツワムシ科	GO!
ツユムシ科	GO!
コオロギ科	GO!
マツムシ科	GO!
ヒバリモドキ科	GO!
カネタタキ科	GO!
ケラ科	GO!
ノミバッタ科	GO!
ヒシバッタ科	GO!
オンブバッタ科	GO!
バッタ科	GO!

注1 鳴き声は、【 虫の音WORLD <http://mushinone.sakura.ne.jp/index.htm> 】 よりダウンロードしたものを収録している。

（PDF版では、試聴できません。EIOffice専用となっています。図鑑本体で該当種を表示し、試聴します。）

注2 種のイメージは、縦横の比率は正確ではありません。

注3 種の詳細は、私の昆虫図鑑で、図鑑本体で閲覧できます。（インデックス番号で検索します）



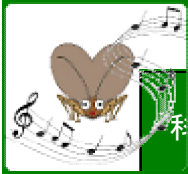
バッタ目(直翅目)の全科説明(資料)


2018. 7. 5 Tentoumushi (Oda) 作成

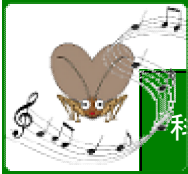
[↑ TOP](#)
[← 目次](#)









科 名	科概要 (ことわりなきものは、出典 Wikipedia)	種 (和名) 大きさ(≒mm) 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
コロギス科	<p>殆どの種類が樹上性。体型はコオロギ上科に酷似し、頭部は卵形で縦長、特に顎が発達し丸顔の種が殆どであるコオロギ上科とは異なる。乾くと糸状になる特殊な唾液を口から吐き、巣作りに利用する。触角は非常に長く、体長の4-6倍ぐらいあり、オスの方が長い傾向がある。複眼は比較的小さいが視力は割合に良い方で動く物に敏感である。暗いところで黒っぽく変わったりはしないが、夜目は利くようである。単眼は通常3つあるが、種類によっては額の1つだけになってしまっているものや、全く退化したものもある。脚は頑丈で比較的長く、脛節には棘を備え獲物の捕獲や巣作りに利用する。前脚には耳を欠く。後脚の発達が悪く、跳躍は苦手である。反面、非常に素早く走ることが出来る。素早く獲物に近寄る。また、危険を感じた際には跳躍した後素早く走り去る。跗節の足先は広がり、吸着組織と爪を備え物にしがみつくのに適する。尾肢は糸状で、コオロギよりは短い。羽の形もコオロギに似ているが、発音器を欠く。一部の種では短く退化、または完全になくなっている。完全な羽を備えた種であっても飛翔することは殆ど無く、威嚇の際に広げて使う程度である。メスの腹部の先には発達した産卵管がある。交尾の際オスはメスの産卵管を脚で抱え込むようにして掴む独特の姿勢で行う。腹部から脚部に発音器官を備えるものがあり、それを用いて発音するほか、脚で物をたたくようにして発音(タッピング)する種類もいる。主に動物質を食べる肉食性で、昆虫などを食べるが生きたものばかりでなく死骸も食べる。また、水分、糖質(樹液、花蜜、果実、アブラムシ・カイガラムシの排泄物)なども好んで摂取する。このため飼育する際はこれらを別々に与える必要がある。ハネナシコロギスの場合、コオロギ用の飼料と甲虫用ゼリー、スポンジにしみこませた水分だけで飼育できる。</p>	コロギス 30-30 6-10月	1444	×	○	×		
		ハネナシコロギス 13-18 6-11月	1445	×	○	×		
カマドウマ科	<p>カマドウマ (Diestrammena apicalis、竈馬) はバッタ目・カマドウマ科に分類される昆虫の一種。俗称で「便所コオロギ」「オカマコオロギ[1]」などとも呼ばれる。キリギリスやコオロギ、ウマオイに似るが、成虫でも翅をもたず専ら長い後脚で跳躍する。その跳躍力は非常に強く、飼育器の壁などに自ら激突死してしまうほどである。姿や体色、飛び跳ねるさまが馬を連想させ、古い日本家屋では竈の周辺などによく見られたことからこの名前が付いた。俗称として「便所コオロギ」などと呼ばれることがある。日本列島及び朝鮮半島の一部に分布するが、地域によっては体の色や交尾器の特徴などが微妙に変化しているため、いくつかの亜種に区別されている。カマドウマという和名は、厳密には北海道から九州の地域と韓国に分布する原名亜種(複数ある亜種のうち最初に学名が付けられた亜種)のみを指し、他の亜種には別の和名が付いている。しかしカマドウマ科の昆虫は互いに似たものが多く、日本産のカマドウマ科だけでも3亜科70種以上が知られ、専門家以外には正確な同定は難しい。したがって、明確な種別の認識なしにこれらカマドウマ科の昆虫を一まとめにカマドウマと言うこともある。この場合は「カマドウマ類」の意か、別種を混同しているかのどちらかである。</p>	ハヤシウマ 13-21 8-11月	1446	×	×	×		
		コノシタウマ 19-30 8-11月	1447	×	○	×		
		クラズミウマ 15-17 6-11月	1448	×	○	×		
		クチキウマ 12-19 6-11月	1449	×	×	×		
		マダラカマドウマ 20-34 4-11月	1450	×	○	×		

[↑ TOP](#)
[← 目次](#)

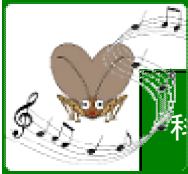


科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ（≒mm） 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
キ リ ギ リ ス 科	キリギリス科（キリギリスか）Tettigoniidae は、バッタ目キリギリス亜目の科。	ヒガシキリギリス 25-40 7-10月	1451	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/ヒガシキリギリス.mp3
	下位分類 ツユムシ亜科 Phaneropterinae ツユムシ Phaneroptera falcata アシグロツユムシPhaneroptera nigroantennata セスジツユムシ Ducetia japonica ホソクビツユムシ Shirakisotima japonica クダマキモドキ（サトクダマキモドキ） Holochlora japonica ヤマクダマキモドキ Sinochlora longifissa	ニシキリギリス 29-40 6-10月	1452	○	○	○		../バッタ目の鳴き声/ニシキリギリス.mp3
	クツワムシ亜科 Mecopodinae クツワムシ Mecopoda nipponensis タイワンクツワムシ Mecopoda elongata	ヤブキリ 45-58 6-10月	1453	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/ヤマヤブキリ.mp3
	ウマオイ亜科 Listroscelidinae ハヤシノウマオイ Hexacentrus japonica ハタケノウマオイ Hexacentrus unicolor	ヒメギス 17-27 6-10月	1454	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/ヒメギス.mp3
	クサキリ亜科 Copiphorinae クサキリ Homorocoryphus lineosus クビキリギス Euconocephalus thunbergi カヤキリ Pseudorhynchus japonicus	ミヤマヒメギス 16-29 7-9月	1455	×	×	×		
	ササキリ亜科 Conocephalinae ササキリ Conocephalus melaenus ウスイロササキリ Conocephalus chinensis オナガササキリ Conocephalus gladius ホシササキリ Conocephalus maculatus コバネササキリConocephalus laponicus	コバネヒメギス 15-26 7-9月	1456	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/コバネヒメギス.mp3
	キリギリス亜科 Tettigoniinae ヤブキリ Tettigonia orientalis キリギリス Gampsocleis buergeri ヒメギス Metrioptera engelhardti コバネヒメギス Chizuella bonneti ツシマフトギス Paratlanticus tsushimensis	カヤキリ 63-67 7-9月	1457	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/カヤキリ.mp3
	キリギリス科（キリギリスか）Tettigoniidae は、 バッタ目キリギリス亜目の科。	クサキリ 37-47 7-10月	1458	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/クサキリ.mp3



科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ（≒mm） 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
キ リ ギ リ ス 科	キリギリス科（キリギリスか）Tettigoniidae は、バッタ目キリギリス亜目の科。 下位分類 ツユムシ亜科 Phaneropterinae ツユムシ <i>Phaneroptera falcata</i> アシグロツユムシ <i>Phaneroptera nigroantennata</i> セスジツユムシ <i>Ducetia japonica</i> ホソクビツユムシ <i>Shirakisotima japonica</i> クダマキモドキ（サトクダマキモドキ） <i>Holochlora japonica</i> ヤマクダマキモドキ <i>Sinochlora longifissa</i> クツワムシ亜科 Mecopodinae クツワムシ <i>Mecopoda nipponensis</i> タイワンクツワムシ <i>Mecopoda elongata</i> ウマオイ亜科 Listroscelidinae ハヤシノウマオイ <i>Hexacentrus japonica</i> ハタケノウマオイ <i>Hexacentrus unicolor</i> クサキリ亜科 Copiphorinae クサキリ <i>Homorocoryphus lineosus</i> クビキリギス <i>Euconocephalus thunbergi</i> カヤキリ <i>Pseudorhynchus japonicus</i> ササキリ亜科 Conocephalinae ササキリ <i>Conocephalus melaenus</i> ウスイロササキリ <i>Conocephalus chinensis</i> オナガササキリ <i>Conocephalus gladius</i> ホシササキリ <i>Conocephalus maculatus</i> コバネササキリ <i>Conocephalus laponicus</i> キリギリス亜科 Tettigoniinae ヤブキリ <i>Tettigonia orientalis</i> キリギリス <i>Gampsocleis buergeri</i> ヒメギス <i>Metrioptera engelhardti</i> コバネヒメギス <i>Chizuella bonneti</i> ツシマフトギス <i>Paratlanticus tsushimensis</i> キリギリス科（キリギリスか）Tettigoniidae は、 バッタ目キリギリス亜目の科。	ヒメクサキリ 32-48 8-10月	1459	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/ヒメクサキリ.mp3
		シブイロカヤキリ 36-46 4-7月	1460	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/シブイロカヤキリ.mp3
		クビキリギス 50-57 4-7月	1461	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/クビキリギス.wav
		ホシササキリ 21-27 7-11月	1462	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/ホシササキリ.mp3
		ウスイロササキリ 28-33 6-11月	1463	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/ウスイロササキリ.mp3
		ササキリ 21-28 7-11月	1464	○	○	○		../バッタ目の鳴き声/ササキリ.mp3
		オナガササキリ 20-30 7-11月	1465	×	×	○		../バッタ目の鳴き声/オナガササキリ.mp3
		コバネササキリ 13-20 9-11月	1466	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/コバネササキリ.mp3

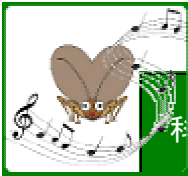
 ↑ TOP ←目次	科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ（≒mm） 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
	キリギリス科		ハヤシノウマオイ 45-45 6-11月	1467	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/ハヤシノウマオイ.mp3
	ササキリモドキ科	ササキリモドキ	セスジササキリモドキ 11-14 8-11月	1468	×	×	×		
		昆虫綱直翅(ちよくし)目キリギリス科に属する昆虫。小形のキリギリス類の一種で、ササキリ類に似ているのでこの名があるが、ササキリ類とは異なり樹上生活者である。体長13ミリメートル内外の薄緑色の虫で、前翅には小さい斑点(はんでん)を散布しており、雄の腹端部は複雑な構造をしている。雌の産卵管は剣状で、基部腹側はフォーク状に小突起がある特異な構造を備えている。本州、四国、九州、対馬(つしま)、台湾、中国などに分布する。日本では成虫は夏から秋にかけて出現する。この仲間の虫は本種のほか十数種が日本に分布している。〔山崎柄根〕	ヒメツユムシ 8-13 8-11月	1469	×	×	×		
		日本大百科全書(ニッポニカ)の解説	キタササキリモドキ 11-15 8-10月	1470	×	○	×		
↑ TOP ←目次	クツワムシ科	クツワムシ(轡虫、 <i>Mecopoda nipponensis</i>)とは、バッタ目キリギリス科の昆虫。体は緑色または褐色で、翅は幅広い。雄は「ガチャガチャ」と鳴く。日本固有種で、関東以南から九州まで分布。別名管巻(くだまき)。 大型で体高が高く、ずんぐりとしたその体の側面積は日本のキリギリス亜目中最大(体長ではカヤキリの方が遥かに上回る)。また、肉食性が強い同亜目にあって、草食、しかもほぼクズの単食という食性は異色といえる。 メスはオスよりも翅が細長く、体が巨大であることを除けば、ツユムシやクダマキモドキにやや似るが、産卵管は剣状である。 体色は個体変異が大きく、緑色の個体と褐色の個体がある。保護色と考えられるが、両者は同所的に混在し、生息フィールドごとに同じ色の個体群が安定して棲んでいるわけではない。	クツワムシ 50-55 8-11月	1471	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/クツワムシ.mp3
↑ TOP ←目次	ツユムシ科	《バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑》 日本直翅類学会監修 村井 貴史・伊藤 ふくお著 目次の分類に従った (oda)	セスジツユムシ 33-47 6-11月	1472	○	○	○		../バッタ目の鳴き声/セスジツユムシ.wav
		・種の解説 クロギリス科 / コロギス科 / カマドウマ科 / <u>キリギリス科</u> / ササキリモドキ科 / クツワムシ科 / <u>ツユムシ科</u> / コオロギ科 / マツムシ科 / ヒバリモドキ科 / カネタタキ科 / アリツカコオロギ科 / ケラ科 / ノミバッタ科 / ノミバッタ科 / ヒシバッタ科 / オンブバッタ科 / バッタ科	ツユムシ 29-37 6-11月	1473	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/ツユムシ.mp3



↑ TOP
←目次

↑ TOP
←目次


科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ(≒mm) 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
ツ ユ ム シ 科	《バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑》 日本直翅類学会監修 村井 貴史・伊藤 ふくお著 目次の分類に従った（oda） ・種の解説 クロギリス科 / コロギス科 / カマドウマ科 / キリギリス科 / ササキリモド キ科 / クツワムシ科 / ツユムシ科 / コオロギ科 / マツムシ科 / ヒバリモ ドキ科 / カネタタキ科 / アリツカコオロギ科 / ケラ科 / ノミバッタ科 / ノミバッタ科 / ヒシバッタ科 / オンブバッタ科 / バッタ科	アシグロツユムシ 29-37 7-11月	1474	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/アシグロツユムシ.mp3
		ヘリグロツユムシ 38-56 8-11月	1475	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/ヘリグロツユムシ.mp3
		ヒメクダマキモド キ 34-42 8-11月	1476	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/ヒメクダマキモドキ.mp3
		サトクダマキモド キ 45-62 8-11月	1477	○	○	×		
		ヤマクダマキモド キ 52-54 7-11月	1478	×	○	×		
コ オ ロ ギ 科	コオロギ科 (Gryllidae) は、昆虫綱バッタ目（直翅目）キリギリス亜目（剣弁亜目）コオロギ上科の1科である。ケラなど以外の、代表的なコオロギのほとんどが属する。 ケラ科と異なり、メスは鳴かない。また、触角は先端がまがっている。	エンマコオロギ 29-35 8-11月	1479	○	○	○		../バッタ目の鳴き声/エンマコオロギ.mp3
		モリオカメコオロ ギ 12-16 8-11月	1480	○	○	○		../バッタ目の鳴き声/モリオカメコオロギ.mp3
		ハラオカメコオロ ギ 12-15 8-11月	1481	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/ハラオカメコオロギ.mp3



↑ TOP
←目次

↑ TOP
←目次

↑ TOP
←目次

科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ(≒mm) 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
コオロギ科	コオロギ科 (Gryllidae) は、昆虫綱バッタ目（直翅目）キリギリス亜目（剣弁亜目）コオロギ上科の1科である。ケラなど以外の、代表的なコオロギのほとんどが属する。 ケラ科と異なり、メスは鳴かない。また、触角は先端がまがっている。	ツツレサセコオロギ 16-16 8-11月	1482	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/ツツレサセコオロギ. mp3
		ミツカドコオロギ 16-20 8-11月	1483	○	○	○		../バッタ目の鳴き声/ミツカドコオロギ. mp3
マツムシ科	《バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑》 日本直翅類学会監修 村井 貴史・伊藤 ふくお著 目次の分類に従った (oda) ・種の解説 クロギリス科 / コロギス科 / カマドウマ科 / キリギリス科 / ササキリモドキ科 / クツワムシ科 / ツユムシ科 / <u>コオロギ科</u> / <u>マツムシ科</u> / ヒバリモドキ科 / カネタタキ科 / アリツカコオロギ科 / ケラ科 / ノミバッタ科 / ノミバッタ科 / ヒシバッタ科 / オンブバッタ科 / バッタ科 《wikipedia》 マツムシ（松虫、 <i>Xenogryllus marmoratus</i> ）は <u>バッタ目コオロギ科</u> の昆虫。古くはスズムシのことを「マツムシ」、マツムシのことを「スズムシ」と呼んでいた、あるいは混同されることが多かったといわれる。また明治以降は外来種のアオマツムシが都市部を中心に爆発的に繁殖しており、現在ではこのアオマツムシともしばしば混同されるようになっている。	スズムシ 16-19 8-11月	1484	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/スズムシ. MP3
		マツムシ 20-20 8-11月	1485	×	×	○		../バッタ目の鳴き声/マツムシ. MP3
		アオマツムシ 21-23 7-11月	1486	○	○	○		../バッタ目の鳴き声/アオマツムシ. mp3
		カンタン 14-18 7-11月	1487	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/カンタン. mp3
		ヒロバネカンタン 14-18 7-10月	1488	×	×	○		../バッタ目の鳴き声/ヒロバネカンタン. mp3
		カワラスズ 8-8 6-10月	1488	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/カワラスズ. mp3



科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ（≒mm） 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
ヒ バ リ モ ド キ 科	《バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑》 日本直翅類学会監修 村井 貴史・伊藤 ふくお著 目次の分類に従った（oda） ・種の解説 クロギリス科 / コロギス科 / カマドウマ科 / キリギリス科 / ササキリモドキ科 / クツワムシ科 / ツユムシ科 / <u>コオロギ科</u> / マツムシ科 / <u>ヒバリモドキ科</u> / カネタタキ科 / アリツカコオロギ科 / ケラ科 / ノミバッタ科 / ノミバッタ科 / ヒシバッタ科 / オンブバッタ科 / バッタ科 《wikipedia》での解説 クツヤコオロギ亜科 Brachytrupinae スズムシ亜科 Gachoplistinae マツムシ亜科 Eneopterinae カヤコオロギ亜科 Euscyrtinae コオロギ亜科 Gryllinae Gryllomiminae Gryllomorphinae †Gryllospeculinae Hapithinae イタラ亜科 Itarinae クチキコオロギ亜科 Landrevinae Luzarinae ヤチスズ亜科 Nemobiinae Pentacentrinae マツムシモドキ亜科 Podoscirtinae カンタン亜科 Oecanthinae Paragryllinae Phalangopsinae アシマダラマツムシ亜科 Phaloriinae Pteroplistinae Rumeinae クマスズムシ亜科 Sclerogryllinae Tafaliscinae <u>ヒバリモドキ亜科</u> Trigonidiinae	ヤマトヒバリ 5-6 8-10月	1489	×	×	○		../バッタ目の鳴き声/ヤマトヒバリ. mp3
		マダラスズ 6-8 6-11月	1490	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/マダラスズ. mp3
		シバズ 6-7 6-11月	1491	×	×	○		../バッタ目の鳴き声/シバズ. mp3
		キアシヒバリモドキ 5-6 5-8月	1492	×	×	×		
		クサヒバリ 6-8 8-10月	1493	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/クサヒバリ. mp3
		ウスグモスズ 7-8 8-10月	1494	×	×	×		
		ヤチスズ 6-9 8-11月	1495	×	×	○		../バッタ目の鳴き声/ヤチスズ. mp3
カ ネ タ タ キ 科	カネタタキ 形態 体長はオス、メスとも9 - 15mm程。淡褐色のやや細長く平たい体型である。オスは頭部、前胸背がやや明るい赤褐色、翅が暗赤褐色をしているため、体に横帯が入っているように見える。翅の退化が著しくオスのみ発音用に前翅を持つが鱗状で非常に小さい。メスは無翅。戦後数を激増させた外来種、アオマツムシの幼虫に姿が非常に似ており、生息地も重複しているため、しばしば両者は互いに誤認される。	カネタタキ 7-11 8-11月	1496	×	○	○		../バッタ目の鳴き声/カネタタキ. mp3

↑ TOP
←目次

↑ TOP
←目次



↑ TOP
←目次

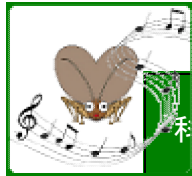
↑ TOP
←目次

↑ TOP
←目次

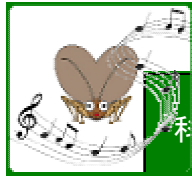
↑ TOP
←目次

↑ TOP
←目次

科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ（≒mm） 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
ケ ラ 科	ケラ（螻蛄）は、バッタ目（直翅目）・キリギリス亜目・コオロギ上科・ケラ科（Gryllotalpidae）に分類される昆虫の総称。コオロギ類の中には地下にトンネルを掘って住居とするものがいくつか知られているが、ケラは採餌行動も地中で行うなど、その中でも特に地中での生活に特化したグループである。日本にはその中の一種ケラ <i>Gryllotalpa orientalis</i> Burmeister, 1839 (G. fossor Scudder, 1869 と同) が分布し、単にケラと言った時にはこの種を指すことが多いが、世界中の熱帯・温帯に多くの種類が分布している。	ケラ 30-35 4-10月	1497	○	×	○		../バッタ目の鳴き声/ケラ.mp3
ノ ミ バ ッ タ 科	出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』（2012/06/27 22:14 UTC 版） ノミバッタ <i>Xya japonica</i> 体長5mm程度と非常に小型で、全身光沢のある黒褐色。SFに登場する未来の乗り物のようなとても変わった姿をしている。後脚がアンバランスなまでに異様に発達しており、凄まじい跳躍力を持つが、歩行する際には後脚は折り畳まれたままで使用されることはなく、短い前脚と後脚に代わって後方の重心を支える長く発達した中脚を使ってチョコチョコと歩く。適度な日当たりのある湿気の多い場所に棲み、地面に穴を掘って家族で生活する亜社会性を持つ。餌は数種類のコケであり、それらを与えることで飼育することもできる。また、頭部から胸部にかけての形態はむしろケラに似ており、バッタではなくコオロギ上科に分類する意見もある。	ノミバッタ 4-6 3-11月	1498	×	×	×		
ヒ シ バ ッ タ 科	出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』（2012/06/27 22:14 UTC 版） ヒシバッタ科は種分化が激しいことで知られ、本州にも未記載種が複数生息すると言われる。標準和名としては「ヒシバッタ」は使用されない。 ハラヒシバッタ <i>Tetrix japonica</i> 体長は5 - 10mm足らずの小さなバッタ。翅は短くてほとんど飛ばない代わりにジャンプ力が強く、一飛びすると小さいことも手伝って一瞬で視界から消えるほどである。乾燥した場所にも見られるが、主要な生息環境は湿気の多い場所である。コケの一種や腐り始めた広葉樹の落ち葉を食べている。	トゲヒシバッタ 19-27 3-11月	1499	×	○	×		
		ハネナガヒシバッ タ 19-27 3-12月	1500	○	×	×		
		コバネヒシバッタ 10-12 4-11月	1501	×	○	×		
		ハラヒシバッタ 8-14 4-11月	1502	×	○	×		
オン ブ バ ッ タ 科	出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』（2012/06/27 22:14 UTC 版） オンブバッタ <i>Atractomorpha lata</i> オスの体長は2cmほど、メスの体長は4cmほどの小型のバッタ。クズなどの葉の広い植物を食べる。大きなオンブバッタの上に小さなオンブバッタが乗っている姿がよく知られているが、これはオスがメスを独占している状態で、仲良しの親子などではない。漢名は負蝗。	オンブバッタ 20-42 6-12月	1503	×	○	×		
バ ッ タ 科	バッタ科（バッタか、Acrididae）は昆虫綱バッタ目バッタ亜目の下にある科であり、1万種余りが知られている。バッタ目の中でも中心を占める科である。群生して蝗害をもたらすバッタの全てがバッタ科に属する（ただし、全てのバッタ科が群生行動するわけではない）。バッタ科のバッタは比較的短くて太い触角を持ち、鼓膜（Tympanal organ）が腹部の両脇にある。 トノサマバッタ亜科（Oedipodinae）は、Acrididae超科の下として、独立した科として扱われることもある。	ミカドフキバッタ 19-39 7-10月	1504	×	○	×		



科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ（≒mm） 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
バッタ科	<p>バッタ科（バッタか、Acrididae）は昆虫綱バッタ目バッタ亜目の下にある科であり、1万種余りが知られている。バッタ目の中でも中心を占める科である。群生して蝗害をもたらすバッタの全てがバッタ科に属する（ただし、全てのバッタ科が群生行動するわけではない）。バッタ科のバッタは比較的短くて太い触角を持ち、鼓膜（Tympanal organ）が腹部の両脇にある。</p> <p>トノサマバッタ亜科（Oedipodinae）は、Acrididae超科の下として、独立した科として扱われることもある。</p>	ヤマトフキバッタ 22-38 7-10月	1505	×	○	×		
		アオフキバッタ 20-26 8-10月	1506	×	×	×		
		タンザワフキバッタ 20-29 7-10月	1507	×	×	×		
		ハネナガフキバッタ 20-39 7-10月	1508	×	×	×		
		ツチイナゴ 50-70 3-11月	1509	○	×	×		
		ハネナガイナゴ 17-40 7-11月	1510	×	○	×		
		コバネイナゴ 16-40 7-12月	1511	×	○	×		
		セグロイナゴ 26-40 8-11月	1512	×	○	×		



科 名

科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）

種（和名）
大きさ（≒mm）
出現時期

生態 IMAGE
BMP (00-94) PDF (100-120)

種同定
IMAGE
(94-99)

鳴き声

参考画像

鳴き声試聴

バ
ッ
タ
科

バッタ科（バッタか、Acrididae）は昆虫綱バッタ目バッタ亜目の下にある科であり、1万種余りが知られている。バッタ目の中でも中心を占める科である。群生して蝗害をもたらすバッタの全てがバッタ科に属する（ただし、全てのバッタ科が群生行動するわけではない）。バッタ科のバッタは比較的短くて太い触角を持ち、鼓膜（Tympanal organ）が腹部の両脇にある。
トノサマバッタ亜科（Oedipodinae）は、Acrididae超科の下として、独立した科として扱われることもある。

ナキイナゴ
19-30
6-9月

1513

×

×

○



../バッタ目の鳴き声/ナキイナゴ.mp3

ショウリョウバッ
タ
40-80
8-11月

1514

×

○

×



ショウリョウバッ
タモドキ
27-57
7-11月

1515

×

○

×



イナゴモドキ
25-30
6-8月

1516

×

○

×



ツマグロバッタ
33-49
7-9月

1517

○

○

×



ヒロバネヒナバッ
タ
23-30
6-11月

1518

×

○

×



ヒナバッタ
19-30
4-12月

1519

○

×

○



../バッタ目の鳴き声/ヒナバッタ.mp3

タカネヒナバッタ
16-22
6-9月

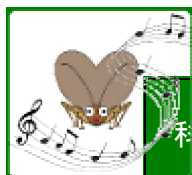
1520

×

×

×





科 名	科概要（ことわりなきものは、出典 Wikipedia）	種（和名） 大きさ（≒mm） 出現時期	生態 IMAGE		種同定 IMAGE (94-99)	鳴き声	参考画像	鳴き声試聴
			BMP (00-94)	PDF (100-120)				
バッタ科	<p>バッタ科（バッタか、Acrididae）は昆虫綱バッタ目バッタ亜目の下にある科であり、1万種余りが知られている。バッタ目の中でも中心を占める科である。群生して蝗害をもたらすバッタの全てがバッタ科に属する（ただし、全てのバッタ科が群生行動するわけではない）。バッタ科のバッタは比較的短くて太い触角を持ち、鼓膜（Tympanal organ）が腹部の両脇にある。</p> <p>トノサマバッタ亜科（Oedipodinae）は、Acrididae超科の下として、独立した科として扱われることもある。</p>	トノサマバッタ 35-65 6-11月	1521	○	○	×		
		クルマバッタ 35-65 7-11月	1522	○	○	×		
		クルマバッタモドキ 32-65 7-11月	1523	×	○	×		
		マダラバッタ 27-35 7-11月	1524	×	○	×		
		ヤマトマダラバッタ 30-35 7-10月	1525	×	×	×		
		イボバッタ 24-35 7-11月	1526	×	○	×		
		カワラバッタ 25-43 7-10月	1527	×	○	×		

↑ TOP
←目次

↑ TOP
←目次